

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	田中 芳雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価の掲げた内容	市民会館の使用状況を確認しながら、よりよい管理運営体制を整え、定着を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターやショッピングプラザ鎌ヶ谷と綿密な意見交換の場をもつために、月1回情報共有の場をつくり、様々な来館パターンに対し、スムーズな対応の検討をする。
②①に基づく取組み結果	各施設の使用状況を確認しながら、話し合いを行い、連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図(対象をどうするのか)	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールの来場者が増加することで、各施設の存在のPRIに繋がり、来館者が増加する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	4月に開館し、1年を経過したが、事故もなく、円滑に施設を管理運営することができた。					
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	算定根拠
	i	きらりホール			74,932	人 業務取得
	ii	中央公民館			66,674	人 業務取得
	iii	多文化共生推進センター			3,402	人 業務取得
	IV	男女共同参画推進センター・市民活動推進センター			3,306	人 業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算	
事業費(千円)	7,484	109,324	金額(千円)	内容	114,577	
	国支出金(千円)		80,987	市民会館賃借料		
	県支出金(千円)		8,834	光熱水費		
	市債その他(千円)		12,733	清掃委託		
	一般財源(千円)	7,484	109,324		114,577	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターやショッピングプラザ鎌ヶ谷と綿密な意見交換が必要である。また、様々な来館パターンに対し、スムーズな対応が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営をするにあたって、市関与の妥当性、公平性、有効性は高いといえる。また、課題に対しての対応が必要なため、拡充とする。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績		当初		H25からの繰越		
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正		現年分		
		流用・充当				
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	田中 芳雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	「貸館業務」として、施設の利用にあたっての 手続き、諸注意、また実際に使ってみて必要な 備品等を精査し、揃える。また「自主事業」の実 施についても、より市民の意見を取り入れること のできるよう、検討の仕組みを整える必要が ある。	③平成27年 度に取り組む 改革・改善 内容	貸館業務については、今までの データの整理を行う。 自主事業については、観覧者数を 増やすため、きらりホール運営委員 のアドバイスをもとに、来年度以降 の計画や告知方法などを検討す る。
②①に基づく 取り組み 結果	貸館業務では、注意指導により、安全に運営 することができた。また、備品の整備を行った。 きらりホール運営委員会を設置し、自主事業 検討の仕組みを作ることができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民、市域	意図(対象をどう するのか)	市民の芸術文化活動のサポートを する。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始 からの状況変化や今後の 見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての 市民ニーズは高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	オープニングセレモニーや貸館業務、自主事業では多数の市民が来場した。また、 きらりホール運営委員会を設置し、自主事業検討の仕組みを作ることができた。						
②成果 を表す 指標	指標名称		平成24 年度	平成25 年度	平成26 年度	単位	算定根拠
	i	ホール来場者数			74,932	人	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	32,142	58,469	金額(千円)	内容		54,926	
国支出金(千円)			28,366	舞台保守管理委託			
県支出金(千円)			11,021	公演謝礼			
市債その他(千円)			1,647	舞台用消耗品			
一般財源(千円)	32,142	58,469				54,926	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する 現状など)	貸館業務については、効率的な運営を行うためにデータの整理が必要である。自主事業に ついては、公演内容の検討の仕組みを整え、観覧者数を増やすことが課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	まちづくりという観点から、きらりホールの管理運営を考えると、市関与の妥当性、公平性、 有効性は高いといえる。また、課題に対しての対応が必要なため、拡充とする。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			当初		H25から の繰越	
	H25⇒26繰越					
③達成状況		補正		現年分		
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
平成27年度への繰越額(単位:千円)						